

# 先進自治体の取り組む地域共生社会

～自発的自律的な連携の動き～

## 提言

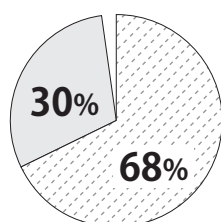
住民が地域共生社会を実現するために主体的に行動するには、市区町村の適切な支援が必要である。市区町村は、地域の実情に応じ多種多様に展開される住民活動を学び合うため互いに連携して情報交換し、内容を充実していきたい。

## 登壇者

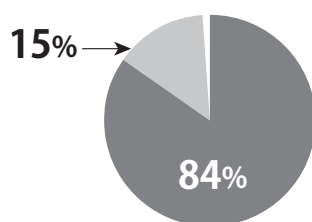
- 【進行役】 堀田 力 (公財) さわやか福祉財団会長
- 【アドバイザー】 広井 良典氏 京都大学人と社会の未来研究院教授、幸せリーグ顧問
- 【アドバイザー】 堀田 聡子氏 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授
- 菅原 弘子氏 (特非) 地域共生政策自治体連携機構理事・前事務局長
- 森 貞述氏 前高浜市長、(特非) 地域共生政策自治体連携機構理事
- 北尻 光氏 幸せリーグ参加自治体 (京丹後市職員)
- 板持 周治氏 小規模多機能自治推進ネットワーク会議事務局 (雲南市職員)

アンケートの結果 参加者概数：361名 回答者数：111名

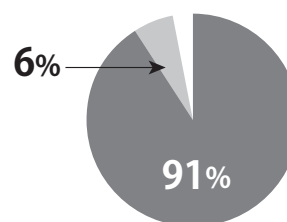
回答者の所属先



助け合い活動をすすめる立場の方



その他の方



## ■ 議事要旨 堀田 力

「地域共生社会をつくる主体は住民」というメッセージを全体シンポジウムが出したのを受けて、本分科会は「では、住民のそういう活動を引き出し、支援するのは、どこか」を問うた。

各登壇者ともに、その答えは、国ではなく、市町村だという点で一致した。京大教授の広井良典さんからは、住民の幸福実感の向上を目指す市町村のネットワーク「幸せリーグ」の活動を紹介しながら、「しかし市町村が幸福という、個人によって感じ方が異なる主観的なものを政策目標にしてよいのか」という問いを提起された。

世界の政策目標は、経済成長、GDPの拡大から、福祉・生活満足度の向上へと進んでおり、その内容が「幸福度」だと指摘された。

そうなると、市町村は、人に応じて多様な感じ方がある幸福を、どのように実現していくのか、が問われる。

幸せリーグに加入している京丹後市（京都府）の職員北尻光さんは、京丹後市が「市民総幸福のまちづくり推進条例」を制定、ウェルビーイングシティを目指して政策を実施している状況を説明。幸福度指標作成のため行った市民アンケートで、「他人の喜びや人のためになることを行いたいと思う」人ほど幸福度が高い傾向が明らかとなったと報告した。

幸福は主観的で多様だが、住民がそれぞれの主観で、地域（他者）に役立つ活動をすれば、それぞれの幸福度が高まることになるということである。

地域共生政策自治体連携機構（旧福祉自治体ユニット）の菅原弘子さんから報告された同機構自体の活動（例えば認知症サポーター、介護相談員、市民後見人）やユニット加盟の市町村の諸活動も、その活動主体は住民であり、住民が、人のためになることを動機として行っている活動である。

同機構・ユニットの役員である森貞述前高浜市長から報告された高浜市の先駆的な活動も、住民が地域のために行う活動であり、雲南市の職員板持周治さんから報告された同市や同市が事務局を務める小規模多機能自治推進ネットワーク会議所属の市町村（約300）の活動も、地域に住む住民たちが地域ごとに集まって協議し、地域のためにやるべき活動について合意し、自律的に実践しているものである。

住民が、それぞれに多様な幸福の実現に挑戦しているのである。その内容は多彩だから、市町村は、自発的に連携して学び合っている。

その学びが幸福を目指してシステムを転換するために重要であることを、慶應義塾大学教授の堀田聡子さんが強調された。オランダでも、新しい健康の概念として「社会とのつながり」や「暮らしの質（幸福感など）」、「いきがい」などの要素を加えており、そういう健康や幸福を実現するために新しく学び、長期的視点に立って柔軟に改革していく必要があるという指摘である。

分科会の提言は、「市区町村は、連携して学び合うことが求められている」という趣旨でまとまった。

### ■ 寄せられた声から

- 我が市もSDGs未来都市としてウェルビーイングなまちづくりをすすめています。先進的にすすめているのは企画課や地域振興で、高齢福祉分野とはなかなか連携できていません。このようなサミットに市の中核を担う部署が興味をもって参加してくれるといいのと思いました。
- 地域の特性に合わせて様々なかたちでの地域づくりがあることを知りました。“できない”で終わらせない自分たちのかたちを見つけられれば良いと思いました。
- 堀田聡子氏の話が大変印象に残りました。特に、ポジティブヘルスの考え方には驚きました。日本でもこのような考え方が普及すると、幸福度が上がると思いました。私も出来る範囲で地域の皆様にお伝えしたいと思いました。